東京都三多摩公立博物館協議会報

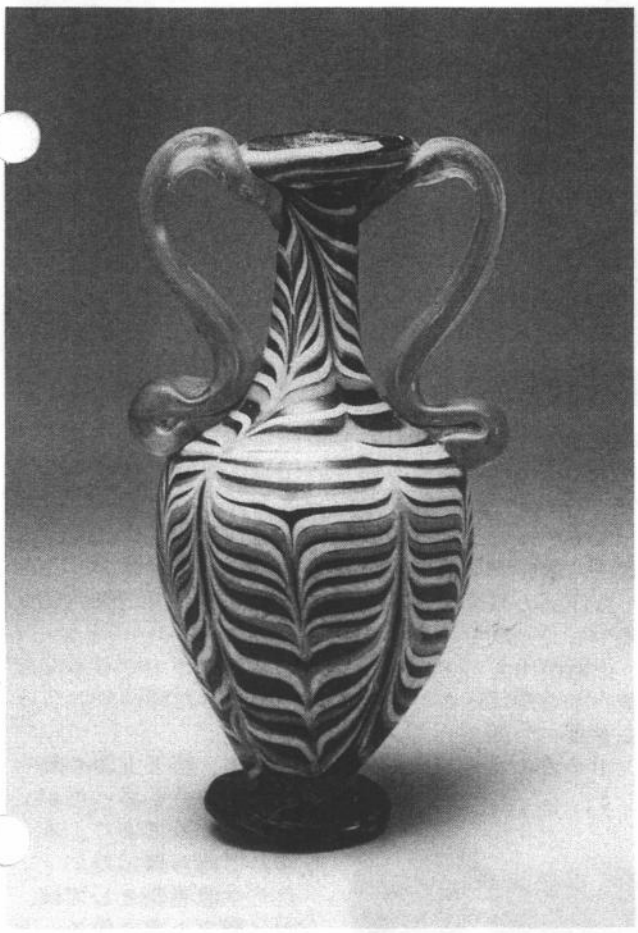
ミュージアム 多摩

No. 14

発行：平成5年3月30日

古代ガラスのはなし

町田市立博物館　川　松　康　人



コアグラス　B.C.3～B.C.I　シリア出土　高さ11cm　町田市立博物館蔵

ガラスが液体を入れるための容器として、登場してくるのは、紀元前16世紀のメソポタミアである。この頃の日本は、縄文時代後期に当たる。メソポタミアのミタンニ王国、アッシリア王国、バビロニア王国などで作られた、ガラス器は高さ7cm～15cm程度の瓶や壺などが中心で、不透明ガラスを使っているところに大きな特徴がある。当時、瓶や壺などのガラス器は、コア技法と言われる特殊な技法で製作されている。コアとは、ガラス器を作る時の核あるいは芯のことで、この技法で作られたガラス器をコア・グラスと呼んでいる。コア技法は、金属棒を芯棒とし、まわりに耐火粘土を付けて、瓶や壺などの芯型を作り乾燥させる。芯型を熱して、熔けた青や褐色の不透明ガラスを巻き付けながら、芯型全体を覆うようにして器体を作る。

さらに、文様を付けるため、別の白、黄、橙、青などの不透明ガラスを紐状に巻き付け、よく素地になじませた後、当時の文様の主流である羽状文ならば先端の尖った道具で上下にひっかき、波形文ならば下からかき上げるようにすれば文様ができあがる。続いて口像部を整形し把手、耳などを付け、熱い灰の中に入れて徐々に冷やした後、金属棒を引き抜き、内部の芯をかき出すとコア・グラスが完成する。非生産的なコア・グラスは、王候貴族の特に女性たちの香水瓶として使われた。しかしコア・グラスは、次のローマン・グラスの登場により、終焉を迎えることになる。

ローマン・グラスは、ローマ帝国時代に領内に作られたガラス器の総称である。ローマ・グラスは、ガラス工芸史上、物筆すべきことがある。それは、紀元前一世紀中頃、地中海東岸にあるシリアで、吹きガラス技法が発明されたことである。たった一本の鉄の棒から、次々に作り出されるガラス器は、ガラスの量生産を可能にした、画期的な出来事であった。

吹きガラスは、坩堝（るつぼ）の中で、千数百度に熔けている水飴のようなガラスを、中空の鉄棒の先端に巻き取り、息を吹き込むと、まるでフーセンガムのようにふくらむ。それを洋ばしやへらなどの道具を使って、さまざまな器形のガラス器を、短時間の内に仕上げていく。当時の人々にとっては、まるで魔法のように見え、大いに驚嘆させられたことであろう。

吹きガラスには、二通りの技法がある。型を使わないで作るのを「宙吹き」と言い、型の中に吹き込むのを「型吹き」と呼ぶ。型に彫刻を施せば、逆に浮彫りとなって、ガラス器の表面に文様が現れる。型吹きは同じ作品を複数作るのに適している技法である。吹きガラスは、ローマ帝国時代以来、今日まで約2千年間にわたって、ガラス製作の中心的な技法として、広く使われ続けてきた重要な手法である。

さて、吹きガラスの発明によって、ガラスの価値観が一変してしまった。それまで、メソポタミアや、エジプトを中心に作られていたコア・グラスは、一点作るのに大変手間がかかった。ところが吹きガラスは、短時間で多くのガラス器を作り出す事が可能となり、一大生産革命と言えるような大変化をもたらした。

その結果、ガラスの値段が大暴落し、瓶や杯が銅貨一枚で買えるようになったと、一世紀の地理学者ストラボンは「地理志」巻16の中で述べている。王候貴族の専有物から、庶民の日常品へと大きく変身し、黄金にも勝る高価なガラスが誰にも手にすることが出来るようになった、記念すべき第一歩と言える。

親子体験学習会～縄文土器作り

日野市ふるさと博物館　秦　哲子

日野市ふるさと博物館は「子供たちに夢を！」という願いのもとに平成元年11月に開館し、現在まで３回の企画展を行っている。体験学習については今まで企画展に伴うものしか行ってこなかったが、平成４年９月からの学校週休２日制導入に伴い、「上からのお達し」であるが我ら博物館にとっては絶好の機会ととらえて取組んだ。さて、今回は平成４年11月～平成５年２月にかけて行われた縄文土器作りについて報告する。

講師の北野義昭先生は、作った土器が野焼きの際に１つでも割れないよう日々苦心しておられ、様々な試みをされてきた。その結果、テラコッタ粘土にぬれた砂と砂糖を混ぜた粘土を使うと土器が作りやすく壊れにくいということを発見された。

製作は２回かけて行われたが、参加者の小学生たちはこちらが驚くような数々の作品を作り出した。子供といっしょに参加した親たちが「縄文土器らしく」または花瓶のように従来の形にとらわれて作っているのに対し、子供たちの作品はものすごい。朝鮮半島の焼物など見たこともないであろう小学校６年生の女の子が作った作品は、正に朝鮮陶磁そのもので、また小学校３年生の女の子は感性大爆発の作品を作り上げ（写真右）、あんまり素晴らしいので野焼きの際割れないように……と我々スタッフ一同心から願った。

１ヶ月以上乾かしてついに野焼きである。しかし天候に泣かされて２週間も延びてしまったため我々がやきもきしていたのに対し、北野先生は実に雄大で、「乾せば乾すほど野焼きに強い良い作品が出来ますよ。」と言われたことには心から感服した。

野焼きは、鉄板の上で薪を燃やし、その両脇に土器を並べて少しずつ回しながら作品全体に火が回るように焼いていく。子供たちも最初は火をこわがっていたが序々に慣れてきて、自分の作品は自分で回すようになっていった。（写真下）

火勢が強まって700度位になった時、作品を火中に置き、薪を増やして勢い良く燃やし、火が弱まってきたら作品の裏側まで火がいくようにし、再び勢い良く燃やして完成である。

土器が冷えるのを待つ間、アルミホイルでくるんだおいもを頬ばったり、こちらの用意した豚汁やおしるこを食べて温まった。

１つだけヒビが入ったものがあり、若干土器の飾りが落ちたものもあったが、ほぼ成功とみてよく、みな喜んで持ち帰った。

ただ主催者側としては、今回は縄文土器を作る、ということに主眼をおいてしまったため、実際土器で煮炊きしたりする縄文生活体験はすることが出来なかった。

このような反省材料を基に、来年度も家族を対象とした体験学習会や成人向け講座を企画し、老若を問わず馴じんでもらえるような「ふるさと」博物館を創造していくのが我々職員一同の願いである。

平成4年度の活動報告と平成5年度の活動計画

■調布市郷土博物館

平成4年度の企画展・特別展は、木彫工芸作家市川銕琅の作品展(3/14～4/19)、くらしと鉱物とのかかわりについて紹介する「くらしと鉱石鉱物」(7/19～9/6)、クラシック自転車を中心に展示し自転車の歴史と文化を紹介する「じてんしゃ百貨展」(11/7～11/22)を実施した。3つの地域福祉センターを巡回する美術作品展は、「関野準一郎版画展」(6月)「鈴木亜夫油彩画展」(10月)を、4つの公民館を巡回する移動展は、「調布の名木・古木写真展」(10, 12月)を、また移動展「昭和の戦争展」(8月)を実施した。そのほか、多摩川探訪、歴史散歩、美術散歩、縄文土器作り・草木染・しめ縄作り・わら草履作りの講習会を行った。

平成5年度の企画展は、市内遺跡から出土した縄文土器を紹介する「縄文土器－それぞれの顔」(3/23～5/23)、「実篤記念館展(仮称)」(6～7月)、日本の夏の風物を紹介する「夏の想い出(仮称)」(7～8月)、「佐俣コレクション展(仮称)」を予定している。また、巡回美術作品展を春と秋に、移動展を8月と秋に予定している。古文書入門講座のほか前年度並みの教育普及活動を実施する。

平成4年7月、かって水車小屋のあった深大寺元町5丁目に深大寺水車館が開館した。湧水だけで回る胸掛け式の水車と搗き臼3基・挽き臼1基を備えた水車小屋があり、市民が米つきや粉挽き(そば・麦)に利用している。併設された展示回廊では、水車や台地の農業に関する資料を展示している。

■東京都高尾自然科学博物館(平成4年度)

自然観察会(日曜日)	スミレを見に行こう	4／12
	初夏の雑木林	5／24
	クモのいろいろ	7／19
	川原の自然	10／25
	けものを探そう	11／29
	鐘乳洞と化石	2／14
自然観察会(平　日)	スミレを見に行こう	4／15
	初夏の高尾の森	5／27
	ネズミを探そう	7／30
	鳥の空巣を探そう	1／20
	早春の高尾の自然	3／24
おもしろ自然講座	クマの話	9／12
(土曜日)	夜の高尾の森とムササビ	12／24
自然講座(日曜日)	スゲの仲間	6／21
	キノコの話	8／23
	けもの(クマ)の話	9／20
	スギ花粉の話	1／24
	東京の大気汚染	3／14
植物調査会	平成4年7月より月1回3年計画	

■立川市歴史民俗資料館(平成4年度の事業)

特別展	「立川の遺跡展」	8／1～9／6
〃	「裂織り作品展」	3／27～(5／9)
体験学習会	はたおり教室①	4／10, 17, 24
〃	②	5／15, 22, 29
体験学習会	はたおり教室③	7／10, 16, 17, 24
〃	④	11／13, 19～21, 22
〃	⑤	11／15, 22
〃	⑥	2／5, 9, 10, 12, 19
子供はたおり教室①		7／29～31
〃	②	8／5～7
1日はたおり教室①		10／9, 17, 22, 30
〃	②	1／22, 26, 30
はたおり体験①		4／2, 3
〃	②	6／26, 27
〃	③	12／4
〃	④	1／22, 26, 30
〃	⑤	2／23
〃	⑥	3／30
手打ちうどう作り		7／7, 8／26, 11／12
もちつき		12／12
昔のおもちゃ作り		8／1
むぎわら細工		8／8
伝承遊び		8／18～20
柏もち作り		5／8
昔のおやつ作り		6／23
ゆでまんじゅう作り		8／16
月見だんご作り		9／12
十三夜のだんご作り		10／8
まゆだま作り		1／9

■清瀬市郷土博物館

歴史展示室テーマ展示「戦乱の終焉から幕政下の村々－清瀬の中世末・近世－」(H4.11～H5.11)中世末の村の成立、近世の法と税、信仰の旅、飢饉などの観点から村の様子を古文書や出土遺物、模型などで紹介。

民俗展示室テーマ展示「子ども歳時記」(H5.2～H6.1)清瀬の風土と子どもたちが育んだ地域性豊かな遊びの数々を、季節ごとに展示。展示に即した講座も行う。

ギャラリー展示　特別展「妹尾正彦の詩情」(H4.4.25～5.10)フォーヴィスムの特徴を色濃くあらわす妹尾氏の初期から晩年の作品を展示。**企画展「清瀬美術家展」**(H4.11.7～23)市内在住の作家の絵画・彫刻を紹介する。**博物館年中行事**　茶つみ・茶もみ、麦棒打ち、あぼひぼ、まゆ玉飾り、節分など昔ながらの行事を再現する。**先人の知恵に学ぶ**　**食編**では伝統料理、梅干し、味噌作り、**衣住編**では機織り、染めもの、和裁、折り紙、しめ縄、藁草履、宿泊体験学習の市民参加型の各講座を設ける。**自然観察会**　市内生息する野鳥や野草を観察。さらに立科高原、石神井公園などへ足をのばして実施した。

■羽村市郷土博物館

●平成4年度活動報告

特別展「羽村の教育　100年のあゆみ」

収蔵品の教科書を中心にして教育の歴史をたどることができるようにした　10月10日～12月13日

企画展「羽村で見られる野鳥」　4月1日～4月8日

市内で観察できる野鳥はく製を展示した。
企画展「五月人形展」 4月10日～5月10日
五月の節句にちなんだ人形を展示した。
企画展「羽村で使われた農具」 5月14日～7月7日
企画展「羽村で使われた漁労具」 7月10日～9月6日
企画展「玉川上水 江戸の木樋」 9月10日～10月4日
玉川上水関係の見学が多い時期に合わせて、収蔵している木樋を展示した。
企画展「まゆ玉飾り」 1月8日～1月17日
1月の行事としてまゆ玉作りを行い、旧下田家住宅と郷土博物館に飾った。
企画展「ひな人形展」 2月10日～3月7日
3月の節句に合わせてひな人形を展示した。
企画展「'92 寄贈品展」 3月10日～3月31日
一年間に寄贈された資料の中から一部を展示した。
はむら自然観察会 4～3月全6回
野鳥・野草を中心とした観察会を実施した。
歴史講座「玉川上水」 5月28日～7月11日全6回実施
テーマ展示「玉川上水」の歴史的な経緯と意義、そのなぞなどを学習できるようにした。
文学散歩「甲州に介山ゆかりの地を訪ねて」 10月3日
山梨市周辺の中里介山ゆかりの地並びに小説『大菩薩峠』の舞台となっているところを訪ねた。
体験学習会「すす払い」 12月18日
旧下田家住宅を使った体験学習の一つですす払いを行った。
体験学習会「まゆ玉作り」 1月10日
年中行事として行われていたまゆ玉作りをした。
●平成5年度活動計画
特別展「多摩川の生んだ文豪中里介山」 10月
没後50年の中里介山の人と作品を紹介する。
企画展「田んぼの中の詩」
田んぼや畑の農作業風景の写真展
企画展「五月人形展」
企画展「ゲタ作りの道具」
企画展「生活用具展」
企画展「玉川上水と木樋」
企画展「まゆ玉飾り」
企画展「ひな人形展」
企画展「'93 寄贈品展」
はむら自然観察会 全6回
歴史講座II「中里介山 人と作品」
文学散歩「介山ゆかりの地を訪ねて」 1泊2日2回
体験学習会 全4回

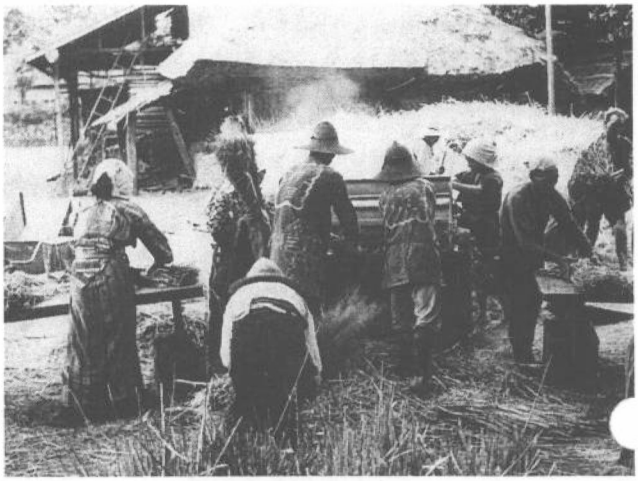
■府中市郷土の森博物館

平成4年度の特別展・企画展は、郷土の森の四季折々の風景を紹介した**写真展－畑亮夫 郷土の森を撮る**(4/26～5/17)、美しい貝や珍しい貝、海の哺乳動物のトドなどを展示し、海辺の生物と環境の関わりを探る**海辺の生物と貝**(7/19～8/31)、当館寄託資料の岡村吉右衛門氏のコレクションから竹の神酒口を中心に展示した**神酒口－岡村コレクションを中心に**(9/13～10/25)、1991年7月の皆既日食の様子や太陽の素顔、日本の太陽観測の現状を紹介した**日食写真展－'91.7皆既日食写真と日本の太陽観測**(11/15～11/29)、「梅まつり」の開催にあわせてウメの開花を写真や前線図・標本で紹介し、身近な植物の開花、落葉の状況、昆虫や鳥の初見・初鳴きなどから季節の遅れや進みの状況を把握できる生物季節観測をわかりやすく解説した**ウメの開花と気象**(2/7～3/7)、緑釉陶器の美しさとその製法を重要文化財を含む資料で紹介する**もえぎ色のうわぐすり－緑釉陶器の美と製法－**(3/21～5/5)を実施した。

平成5年度は多摩川を中心とした南武蔵の古墳出土品を展示し、国府設置以前の南武蔵の様相を探る**古墳展**(夏休み)、歴史の転機となった合戦の社会背景とその後の伝説を探る**分倍河原合戦と新田義貞**(3月末)などを予定している。この他、TAMAらいふ21地域企画事業の一環として、現在に残るハケの自然、湧水をプロカメラマンがとらえ、併せてかつてのハケに展開した人々の暮らしを古い写真で紹介する**ハケの自然とくらし－鍔山英次写真展－**(5/23～6/20)、多摩の農具を取りあげ、地域文化をとらえる**脱穀具展**(9/19～10/31)、を計画している。

加えて、各分野の講座、土器作り、米作りなどの体験学習、「梅まつり」「森のコンサート」「森のお話会」「茶会」などの公演事業、星空観測会・太陽観望会の実施、プラネタリウムの投影、移動天文観測車を使った市民天体観測会などの天文普及活動を展開。

なお、平成3年度に着工した団体休憩所工事が平成5年5月頃のオープンをめざして進行中である。



■武蔵村山市立歴史民俗資料館

1.講座・教室
(1)古文書講座 (6/30, 7/14・21, 8/11・25)
市内に残る古文書のうち、かつての村の様子を伝える「村明細帳」を読み、江戸時代の理解を深めた。
(2)郷土芸能を見る集い
市内に古くから伝わる郷土芸能を実地で見学した。
ア、横・中・馬獅子舞 (4月29日)
イ、三ツ木天王様祇園ばやし (7月12日)
ウ、宿薬師念仏鉦はり (10月12日)
(3)親子縄文土器づくり教室 (8/15・27)
原始時代の土器づくりを親子で体験した。
(4)連続歴史講座 (10/17・31, 11/1・8・14・21・22・28)
本市とその周辺の歴史を通史的に学習し、郷土の歴史に対する理解を深めた。
(5)親子自然教室 (1/29・30)
冬の天体について学習し、天体観察を行った。

2.特別展示（9/13～12/13）
「武蔵村山の村絵図」の展示
市内に残る江戸時代の村絵図を紹介し、当時の村の景観を概観した。

■青梅市郷土博物館
特別展　杣の保の生業－青梅林業の歴史－
7/25～12/27　2階展示室
四方を緑豊かな山々に囲まれた青梅は、古くからそれらの山林資源を利用した林業が盛んでありました。
特に江戸時代においては、成木石灰、青梅織物とならぶ三大地場産業の一つであり、青梅の経済基盤を支えていました。
この伝統ある青梅林業の歴史を、地元関係者の協力を得て、斧・鋸・皮むきなど林業関係資料を約70点を展示しました。
「改戸遺跡土壙出土品重要文化財指定記念速報展
「青梅市出土の土器優品展」
12/20～2/28　1階展示室
市内寺改戸遺跡から出土した注口土器と小形深鉢形土器が、国の重要文化財に指定されたのを記念し、いち早く市民の方々に広く公開するために、速報展として企画しました。
また、この機会に市内各地に点在する遺跡から出土し、当館で収蔵している土器をあわせて展示しました。

■五日市町立五日市町郷土館
平成4年度実施の事業から
企画展「多摩川・秋川水系の滝」（8/13～9/28）
多摩川・秋川の支流や沢をすべて踏破した小沢洋三氏の滝の写真とエッセイをもとに、奥多摩の滝・沢・谷の様相を紹介。一服の涼をそえて。
「五日市の歴史散歩」（5/17）
今回は五日市地区に残る神社・仏閣・史跡などを巡った。解説と見学によって身近な文化財を発見し、理解を深めた。
「自然探検クラブ　観察隊」（5/10・24・6/6・27・7/5・19）
〝自然観察をとおして自然のしくみを学習する〟を目標に、各回ごとに植物・鳥・動物・昆虫・化石などのテーマを決めて、観察を中心に活動した。
「夏休み工作教室」（8/20・21）
〝鳥の巣を作ろう〟をテーマに、いろいろな鳥の巣を観察してから野山へ巣材を集めに行き、製作した。
「とても鳥のようには作れない」と、鳥の素晴らしさを再認識する参加者が多かった。
「夏休み化石教室」（8/28・29）
古生代・新生代の化石採集と地質・岩石の観察、標本作りを行い、夏休み中の郷土学習を援助した。
「土器作り教室」（9/12・13・10/18・11/1）
縄文土器を観察して製作し、野焼きを行うとともに、火おこし・石器作りを体験。さらに作った土器で調理をし、原始・古代の食生活や技術について追体験した。
「自然探検クラブ　体験隊」
（9/6・10/11・11/14・12/12・1/31・2/13・3/14）
〝自然の中で遊べる子〟を目標に、洞窟探検・暗闇体験・ロープワーク・やぶこぎ体験・ネイチャーゲーム・小屋作り・野外料理など、様々な活動を実施。回を重ねるごとに自分なりの楽しみ方を実践するようになっていった。
「五日市町史料第八号　網代家文書目録」刊行
近世を通じて網代村の名主家であった網代家に残る文書、総数1359点の目録。近世文書が大半を占めるが、後北条氏関係文書2通（東京都指定文化財）も含まれる。
平成5年度事業について
平成4年度に収蔵庫等の増築工事が終了したため、今年度は資料の移動を行うとともに、収蔵品の再整理と、未整理の収集資料を整理することに、全館あげて取り組む予定です。そのため、企画展・講座ともに実施の予定はありません。

■東京農工大学工学部附属繊維博物館
(1) 催し物
1.まゆだま祭（1/14㈫ 約30名参加 繭団子をつくる）
2.どんど焼（1/17㈮ 約50名参集 館庭で大焚火をする）
3.サークル終了式（2/28㈮ 約180名参加 講堂にて式典）
4.たなばた祭（7/7前後 約100名参加 願いごと短冊を吊る）
(2) 展示会
1.「大正期の和服ミニチュア展」（'91 12/15～2/10）
2.「郵便にみる明治の農工業」（2/12～3/14）
3.「第11回サークル作品展」（2/18～2/24）
4.「サークル寄贈品展」（3/1～5/6）
5.「写真展・本学キャンパス風景」（3/20～5/8）
6.「インド染織品展」（5/11～6/30）
7.「特別展・テキスタイル技術展」（5/20～5/24）
8.「絵はがき・昭和初期の温泉地」（5/20～6/30）
9.「ウィービングデザイン展」（7/11～10/17）
10.「組ひもクラフト展」（7/11～9/11）
11.「日本手織機模型展」（9/19～10/24）
12.「特別展・科学技術展および絹まつり」（11/12～11/15）
13.「絹の伝統工芸展」（11/12～11/15）
14.「広重浮世絵展」（11/25～'93 1月末）
15.「ニューホーム社のミシン＆ポスター展」（12/1～'93 1月末）
(3) 講習会
1.「北国の樹皮文化」（2/20㈭ 紬瑠かご会主催講演会）
2.「泣きべそ」（4/15㈬ 和紙絵研究会指導）
3.「バラとコスモス」（4/24㈮ 手編の会指導）
4.「ネックレス」（6/24㈬ 組ひも研究会指導）
5.「正月飾り」（9/8㈫ ひも結び研究会指導）
6.「四方耳ショール」（9/22㈫ 織物研究会指導）
7.「絞りスカーフ」（10/2㈮ 藍染研究会指導）
8.「クリスマスカード」（10/5㈪ レース研究会指導）
9.「手紡ぎ体験講習会」（10/15㈭ 手紡ぎ研究会指導）
10.「正月飾り」（11/27㈮ わら工芸会指導）
11.「舟形つるかご」（11/30㈪ 紬瑠かご会指導）

■奥多摩郷土資料館
収蔵品展（2階）
4年4月～5年3月　小河内の山村生活用具（国指定）を中心に展示。
5年1月13日～31日　正月飾りの門棒、まゆ玉飾り。
小河内の郷土芸能（1階）
4年4月～5年3月　水没した小河内地域に伝承さ

れている鹿島踊、車人形、獅子舞、神楽を展示。
ささら獅子舞展示
　4年4月～5年3月　奥多摩に数多く伝承されている「ささら獅子舞」の中から海沢の獅子舞、原の獅子舞を展示（1階中央展示室）
詩碑紹介
　郷土資料館の庭には花木が沢山植てあり、四季折々に色どりを添え訪れる人を楽しませてくれている。
　ここには、また、小河内ダムの湖底となる前に移された碑や石仏がたくさんある。
　紹介する碑は、昭和6年6月22日徳富蘇峰（1863～1957）が小河内鶴ノ湯に来遊したとき詠じた詩が次のように刻まれている。

登々極水源隔谷幾
村々崖峻泉鳴筧
岳高雲入軒
昭和六稔六月廿二日武州小河内
宿舎即興　蘇峰老人

■東京都井の頭自然文化園
　家族連れや、子供むけの催しをしていますが、昨年は、開園50周年の記念行事が、はいりました。

開園50周年記念行事	5/16～17
（郷土芸能・演奏会・講演会）	
今昔写真展「なつかしの井の頭自然文化園」	5/12
パネル展「これからの動物園」	〃
金魚展	6/28
アユの放流と観察会	5/23
サマースクール	7/21～22
昆虫展	7/1～8/30
夏休み楽しい昆虫教室	7/26
動物愛護標語募集	7/1～30
秋の鳴く虫展	9/5～30
講演会「鳴く虫のおはなし」	9/13
長寿動物のお祝い	9/15
井の頭近辺のむかし（展示）	10/10～12/20
やきいも大会	11/3
おちばのプール（設置）	11/11～12/23
干支展	1/4～2/28
新春寿獅子舞	2/11

　都会のオアシスとして、野生動物との出会いや、武蔵野の自然とのふれあいの場として利用して頂けるよう整備工事の続く園内ですが、「リスの小径」では放飼場に入ってニホンリスの観察が、ふれあい動物コーナーではモルモットを膝にのせて、さわることができます。また、昆虫標本やパネル解説による展示をしている資料館の片隅に「なつかしい遊びのコーナー」と称して羽子板、こま、けんだま、おはじき、おてだま紙ふうせん等を置いています。お孫さんに使い方を教えるお年寄り、お父さんと遊ぶ子供、そして若者グループと、年令をこえて、なかなかの人気があります。
●5年度は、北村西望氏の作品を展示する彫刻園が装いを新たにオープンします。催し予定は次のとおり。

アユの放流と観察会	5月下旬
サマースクール	7月下旬
昆虫展	7～8月
長寿動物のお祝い	9月15日
やきいも大会	11月3日
干支展	1～2月
新春寿獅子舞	1月15日

■桧原村郷土資料館
1．渓谷の滝
　桧原村の周囲は急峻な山嶺に囲まれ緑と清流の里として親しまれています。
　村の中央を標高900mほどの尾根が走りその両側に南北秋川が流れ林の中央である東部で合流して秋川の源流となっております。その間に支流には滝あり渓谷などあって景勝地を作り出しております。それを写真で写し桧原村の滝としてパネルに入れて展示しました。
　展示　平成4年5月30日より平成4年7月2日まで
2．藁製品
　桧原村は山村のため、昔より稲の栽培が行われておりませんので藁は手に入りにくいものでした。家を作るのには縄のかわりに篠竹を煮て柔らかくして縄の代りに用いたものです。（明治のころ）
　藁が入るようになると各種のわらじやぞうりに利用され、また結束用の縄にも利用された。
　〈展示品〉藁で作られたぞうりわらじ9点　その外の植物繊維で作られた、ぞうり及びわらじ10点　藁での民芸品41点
　展示　平成4年6月30日より平成5年3月31日まで
3．昔の消火器
　桧原村は昔の家屋は茅葺の屋根が多いため火災が多く火災には全村を上げて注意し夜警などして火災予防には協力して参りました。
　この度は秋川消防署の協力により下記の展示により消火器の歴史とその進歩。ポスター等により火災による災害等を見学してもらいました。
　1）江戸時代　消火器（龍、吐水）
　2）明治時代　消火器（テレキスイ）
　3）大正時代　消火器（古川式消防ハンドポンプ）
　4）昭和時代　消火器（トーハツポンプ）
　展示　平成4年10月1日より平成4年12月25日ま
4．漁　　具
　桧原村は美しい水と渓流から川では昔は鮎が群をなして遡上し幕府に献上したり上納したりして参りました秋川の鮎は格別に香りも高く美味として珍重されて参りました。当時の漁法は角面や投網、竿を用いて、ヤマメ、ハヤも結構、取れたようです。
　当時使用された用具を展示して、昔をしのびたいと思います。
　〈展示品〉投網及び角面その他42点
　期間　平成4年12月1日より平成5年1月31日まで

■瑞穂町郷土資料館
　瑞穂町郷土資料館の平成4年度における活動は、前年度の特別展「瑞穂町の食文化展」を継続して、10月まで近世から現代までの町民の生活を支えてきた食について展示した。近年まで農村であった町の中には、まだその形態が食の面では言うまでもなく、くらしの中に強く根強く残っているさまがよくわかった展示であった。

続いて年度途中の11月1日から11月3日までの3日間は、「むかしの地図展」をテーマとして、町の総合文化祭に参加しての特別展を開催した。町に残る古絵図や古地図、新しいものでもとりあげ、明治期、さらには大正から昭和初期に発行された大東京地図、東亜太平洋地図や世界地図と、新旧こもごも展示した。

古いものでは復刻版ではあるが、1589年の世界地図、これは町民の寄贈品と、1626年の世界地図が観客の目をひいた。古絵図の中では元禄2年の秣場論争絵図が最も古く、その後のいくつかの村絵図を展示した。

変わったものは、絵壺と絵皿で、2つとも同種の日本地図が描かれ、諸国が古い国名で表わされ、朝鮮、小人国、琉球などの国名も読めた。両者天保年製と銘がある。

地図、地形図等の製作にあたっては、各種の器具を使用したと思われるが、町内高根地区からは1点、江戸期すでに作成されたとみられる測量器械が出品された。

平成5年度は4月より「ふるさとのむかし」をテーマに展示をする予定をたて計画中である。

■福生市郷土資料館

平成4年度特別企画展「長沢遺跡と勝坂式土器展～長沢遺跡第八次調査出土遺物を中心に」。

福生市では平成3年度に長沢遺跡第八次調査を実施しましたが、この調査では面積に比して多量の勝坂式土器が出土したため、これらの土器を中心にして展示を行いました。主な展示資料は、長沢遺跡第八次調査で出土した深鉢、浅鉢、器台、有孔鍔付土器、土偶、石製装身具等の他、長沢遺跡第一次～七次出土の土器や石器、そして長沢遺跡と同じく勝坂期の遺跡である国立市南養寺遺跡、昭島市西上遺跡、立川市向郷遺跡、大和田南遺跡、秋川市二宮遺跡、羽村市精進バケ遺跡出土土器です。

勝坂式土器は大胆で迫力に富んだ造形美をもち、他の土器形式の追随を許さない原始美術の頂点とまでいわれていますが、この評価の一因をなすと思われるものの一つに人面や獣面、蛇体などの手装飾があります。当展示ではこれらの土器装飾に着目し、近隣遺跡からの借用資料においてはこれらの装飾が施された土器を中心に収集を行いました。

これらの勝坂式土器により縄文時代中期に生きた人々の芸術に触れ、現代人が失った豊な精神世界の存在を実感してもらうことをねらいとしました。

□開催期間　平成5年2月2日～平成5年3月30日
□刊行物　展示図録「長沢遺跡と勝坂式土器展」
　　1000部刊行　頒布価格 500円

●平成5年度の活動計画
・企画展「森田製糸と和服(仮題)」期間 平成
　期間　平成6年2月～3月
　明治・大正・昭和期に市内で製糸業を経営した熊川村森田家より寄贈された同時期の和服を展示します。
・特別展「17・18世紀の石造物(仮題)」
　期間　平成5年10月～12月
　市文化財総合調査の一環で実施した石造遺物（墓石）調査の成果（拓本）を展示します。慶安期より宝暦期に至る間に造立された浮彫有像墓石です。
●文化財総合調査の実施
・「社寺美術品調査」3ヵ年計画で実施予定の初年度
・「民具調査」耕作用農具を中心とした農具
●文化財総合調査報告書の刊行
　第27集「石造遺物II－墓石－」

■東村山市立郷土館

平成4年度の活動は、市民の皆さんからの申し出による資料収集とともに、館独自では文化財調査員による収蔵古文書の解読を続けてきました。また、市民の皆さんを対象とした活動は従来どおり北山公園民家園を活用しての「年中行事」等の再現を主軸にしていますが、今年度はさらに「参加型」の拡大を工夫しました。また学校5日制移行にともない、各施設に対して「第2土曜日」の活用が求められましたが、民家園では12月の「しめ縄作り」と1月の「まゆ玉飾り」をこれにあてました。両行事とも、小学生や親子連れの参加でにぎわい、「しめ縄作り」ではしめ縄を、「まゆ玉作り」ではダンゴを5個ほどつけたカシの小枝を参加者に持ち帰っていただきましたが大変好評でした。

各行事の反省の中でも、参加型事業を行う際の「持ち帰り型」のあり方について論議されたところです。

■町田市立博物館

平成4年度は、空調、電気、衛生設備の改修工事のため10月9日まで休館した。

「東洋陶磁－山田義雄コレクション－」(10/10～11/29)
　この度当館に寄贈された山田義雄氏収集による中国・日本・朝鮮などの東洋陶磁600点余の内、521点を展示。中心は中国陶磁器で、彩陶から清朝陶磁まで。

「日光山輪王寺の仮面」(12/8～1/17)
　栃木県日光市の輪王寺に伝来する舞楽面・行道面・神事面・能面など重要文化財を含む120点を展示。

「日本チェコ親善ガラス展」(1/26～3/7)
　日本とチェコを代表する現代ガラス作家42人が制作した作品85点を展示。プラハ他との交換巡回展。

「昇斎一景－明治初期東京を描く－」(3/16～4/11)
　明治初期の戯画・風俗版画家昇斎一景の初の展覧会。当時の滑稽味のある風俗画など252図を展示。

平成５年度の予定
●「忠生遺跡展」(4/20～6/20)
「ベトナム陶磁展」(7/6～8/15)
「ヨーロッパ近代ガラス展」(8/24～10/3)
「農耕図と農耕具展」(10/10～11/14)
「館蔵ボヘミアン・グラス展」(11/23～1/30)
「町田の文化財展」(2/8～4/10)などの企画展を予定。

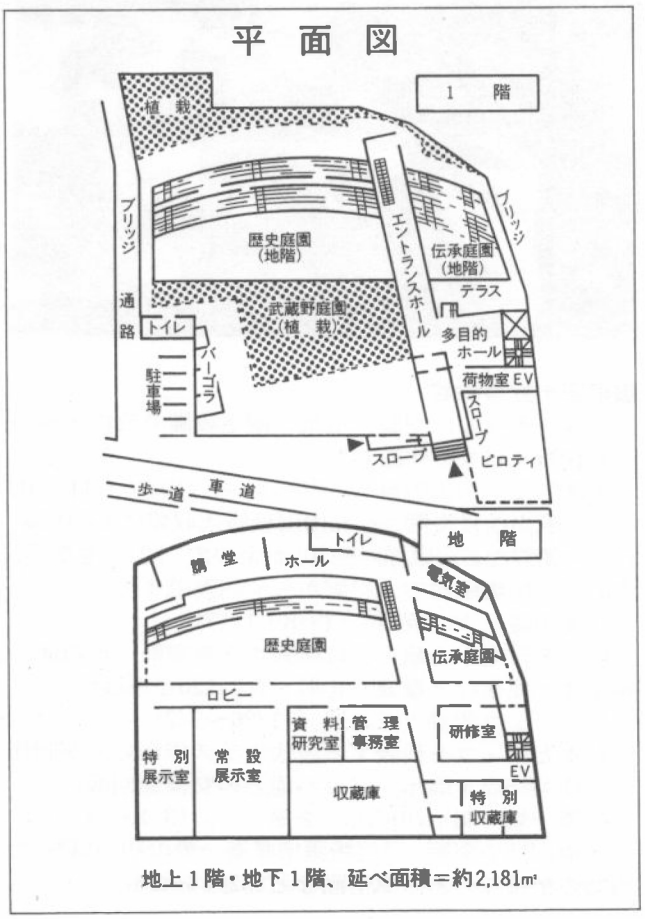
■八王子市郷土資料館
伝える心とかたち (8/2～8/30)
ミニチュア民具とミニチュア着物で伝統的な技術や心を後世に伝える意図を試みた展示。
特別展　甲州道中を旅する (11/1～11/29)
八王子宿は甲州道中の要衝であり、多くの往来が記録されている。それらを中心に、甲府・上諏訪・調布・内藤新宿などの資料を集めて、近世の旅を検証する展示。記念公演　学芸大学教授　竹内誠氏 (11/15)
藤野町史監修者　樋口豊治氏 (11/22)

〈教育普及活動〉
八王子車人形講座 (8/4～8/6)
車人形の歴史・実演・指導を体験。
歴史講座「石川日記の世界」(9/30, 10/1・4・7・8)
千人同心石川家に残る、約200年の日記から、近世農村の暮しぶりを３講師から学ぶ。
体験学習「お正月飾りづくり」(12/13)
平成５年度は次の事業を計画している。
特別展　明治時代の八王子 (11月)
今年度は明治26年に三多摩が東京府へ移管となって100年目に当り、各地で記念行事が予定されているが、当館では、明治時代の政治・経済・文化を資料にそって展示する計画である。記念公演に明治庶民文化をテーマとした内容を依頼中。
歴史講座「明治の八王子」(７月)
これも多摩移管100年記念として実施し、テーマを明治時代にしぼった連続講座とする予定。
他に常設展、小規模な普及事業は通年のとおり。

(仮) 郷土文化施設を建設中

(仮) 国立市郷土文化施設開設準備室

(仮)郷土文化施設は、平成４年９月に建設が始まり、建物は平成６年３月完成予定です。その後、展示工事を行い平成６年秋オープンを目指しています。常設展示室、特別展示室、収蔵庫、講堂等、延べ面積 2,181㎡です。



地上１階・地下１階、延べ面積＝約2,181㎡

完成後は、古代から現代までの歴史、民俗資料や自然の展示、研究、保存など、総合博物館として機能します。また、体験学習や伝統芸能の発表など、市民の方に利用していただく場もあります。

この施設の特徴は、建物の85%を地下に設けている点です。地上の部分は庭園にして、武蔵野の自然な雰囲気を残すようにしています。また、展示についても、エントランスホールの床に、ビデオ画面や展示物を埋め込むなどさまざまな工夫をしています。

地上と地下に設けられる庭園には、次のような特徴があります。
武蔵野庭園……武蔵野に自生する草木を植え自然な雰囲気を残し、「自然と文化の散策路」の休憩場所になります。
歴史庭園……復元した住居跡などから歴史を学んだり、伝統芸能を演じる広場になります。
伝承庭園……室内の研究室とともに「わら細工」「土器作り」などの体験学習の場となります。

なお、(仮)郷土文化施設の内容、運営方法については現在検討中です。また、皆様方の博物館を見学させていただいたり、いろいろお聞きしたりするかと思いますが、よろしくお願い致します。
※建設場所 国立市谷保6,231番地「南養寺」南側です。

発　行：東京都三多摩公立博物館協議会
〒191 日野市神明４－16－１
日野市ふるさと博物館
☎0425-83-5100
編集委員：東村山市立郷土館
八王子市郷土資料館
府中市郷土の森
町田市立博物館